

災害の概況

(平成28年)



鳥取県西部広域行政管理組合
消 防 局

目 次

(ページ数)

災害概況のまとめ	1
I 火災概況	3
1 火災の現況と最近の動向	3
別図 I - 1 火災件数の推移と傾向図	3
別表 I - 1 火災総括表	4
2 出火状況	5
別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率	5
別図 I - 3 月別の火災種別ごと出火件数	5
別図 I - 4 市町村別火災件数と構成比	6
3 火災による死傷者の状況	6
別表 I - 2 火災種別死傷者発生状況	6
4 出火原因	7
別図 I - 5 火災種別ごとの火災原因	7
別表 I - 3 市町村別火災状況	8
別表 I - 4 過去5年間の市町村別火災件数	9
II 救急概況	10
1 救急出動件数、救急搬送状況	10
2 市町村別救急活動状況	10
3 傷病程度別搬送状況	10
4 年齢別搬送状況	10
5 署所別救急活動状況	10
6 月別救急活動状況	10
7 現場到着所要時間、収容所要時間	10
8 応急手当実施状況	10
9 高度救命処置状況	10
10 救急講習件数の推移	10
11 市町村別救急活動の推移	10
別図 II - 1 事故種別救急出動状況	11
別図 II - 2 事故種別救急搬送状況	11
別図 II - 3 過去5年間の救急推移	12
別図 II - 4 市町村別救急活動状況	12
別図 II - 5 傷病程度別搬送状況	13
別図 II - 6 年齢別搬送状況	13
別図 II - 7 署所別救急活動状況	14
別図 II - 8 月別救急活動状況	14

別図Ⅱ－ 9	現場到着所要時間	15
別図Ⅱ－ 10	収容所要時間	15
別図Ⅱ－ 11	応急手当実施状況	16
別図Ⅱ－ 12	高度救命処置状況	16
別図Ⅱ－ 13	医師引き継ぎ時の状況	16
別図Ⅱ－ 14	過去5年間の救急講習件数推移	17
別図Ⅱ－ 15	過去5年間の救急講習人員推移	17
別表Ⅱ－ 1	過去5年間の市町村別救急件数	18
Ⅲ	救助概況	19
1	事故種別救助出動状況	19
2	事故種別救助活動状況	19
3	事故種別救助人員状況	19
4	管轄別救助活動状況	19
5	市町村別救助活動状況	19
6	月別救助活動状況	19
別図Ⅲ－ 1	事故種別救助出動状況	20
別図Ⅲ－ 2	事故種別救助活動状況	20
別図Ⅲ－ 3	事故種別救助人員状況	21
別図Ⅲ－ 4	管轄別救助活動状況	21
別図Ⅲ－ 5	市町村別救助活動状況	22
別図Ⅲ－ 6	月別救助活動状況	22
Ⅳ	119番着信概況	23
1	着信件数の概況	23
2	月別の119番着信状況	23
3	電話種別による119番着信状況	23
4	携帯電話からの着信状況	23
5	時間帯別119番通報の着信状況	23
別表Ⅳ－ 1	119番着信件数	24
別表Ⅳ－ 2	月別119番着信状況	24
別表Ⅳ－ 3	電話種別による119番着信件数の推移	25
別表Ⅳ－ 4	電話種別による通報状況	25
別表Ⅳ－ 5	携帯電話からの着信状況	26
別表Ⅳ－ 6	携帯電話の消防機関別転送状況	26
別図Ⅳ－ 7	時間帯別着信状況	26

災害概況のまとめ

(※注：以下の増減数値は、昨年同期比を示します。)

I 火災概況

平成28年中の火災件数は、118件で前年に比べ24件の増加となりました。

建物火災は6件増加し、林野火災は5件増加、その他火災については12件の大幅な増加となりました。

建物火災は、56件の発生件数があり全体の47%を占め、2月、10月に各8件、4月に7件発生しています。

火災件数は増加しましたが、焼損床面積は24%減少しています。損害額は約13,500万円で前年に比べ約7,400万円(35%)の減少となりました。建物火災1件当たりの損害額は、前年に比べて約43%の減少となっています。

火災による死者は平成24年より平成27年までは減少し、平成27年中は死者の発生はありませんでしたが、28年中は4人の死者が発生しています。

負傷者は20人で、前年より10人の増加となりました。負傷者のうち14人が建物火災により発生しています。

住宅用火災警報器の設置義務化後、住宅用火災警報器が作動し早期に火災に気づいた事例、火災にいたらなかった事例が年々増加しています。

今後とも住民の皆様に対する日頃からの出火防止の啓発、万一火災が発生した場合に延焼拡大を防ぐための防災製品の普及、初期消火のための住宅用消火器の紹介、並びに住宅用火災警報器が未設置である住宅に対する設置推進、適切な維持管理の周知及び経年劣化した住宅用火災警報器の交換の推進について広報活動をしていくことが重要と考えます。

II 救急概況

救急出動件数は10,654件(291件の増・+2.7%)、救急搬送人数は10,109人(337人の増・+3.3%)で、ともに過去最多となっています。

事故種別ごとの出動件数は、急病6,693件(62.8%)と半数以上を占め、次いで一般負傷1,385件(12.9%)、転院搬送1,247件(11.7%)、交通事故875件(8.2%)の順となっています。

年齢別の搬送人数は、65歳以上の高齢者が6,292人(62.4%)と全搬送人数の6割以上で今後も少子高齢化の進展に伴い更に割合が増加することが予測されます。

救急現場では早期の応急手当が救命のチャンスを拡大しますので、住民への心肺蘇生法の普及やAEDの設置が必要不可欠です。

III 救助概要

救助出動件数は183件(19件の減・-9.4%)、救助活動件数は135件(2件の増・+1.5%)となっています。また、救助人員は104人(13人の減・-11.1%)です。

事故種別ごとの救助出動件数は、交通事故が84件(45.9%)と最も多く、次いで、火災が29件(15.8%)、その他の事故が38件(20.8%)、水難事故が18件(9.8%)、建物等による事故が8件(4.4%)、風水害による事故4件(2.2%)、機械による事故が2件(1.1%)となっています。

救助人員では交通事故が最も多く51人(49.0%)、次いでその他の事故29人(27.9%)、水難事故が15人(14.4%)、建物等による事故が3人(2.9%)、火災が2人(1.9%)、風水害による事故が2人(1.9%)、機械による事故が2人(1.9%)の順となつて

います。

年々、風水害等の規模が大きくなり、甚大な被害が各地で発生しています。被害を最小限にするためには、県内外の消防機関、医療機関、防災機関、国、県及び市町村などとの日頃からの迅速な連携活動が必要不可欠と考えています。

IV 119番着信概況

平成28年中の119番通報の着信件数の概況は、総着信件数が14,365件で、昨年より38件(0.3%増)多くなっています。事故種別ごとの着信件数を見ますと、「火災通報」180件(1.3%)、「救急通報」10,206件(71.0%)、「救助通報」103件(0.7%)、「警戒通報」158件(1.1%)、「問合せ」808件(5.6%)、「間違い」778件(5.5%)、「悪戯」52件(0.3%)、「訓練等」2,080件(14.5%)でした。総着信件数のうち、火災、救急、救助の災害通報は、10,489件で全体の約73%を占めています。

電話種別ごとに着信件数を見ますと、固定・IP電話による通報は9,069件(63.1%)、携帯電話による通報は5,296件(36.9%)でした。固定・IP電話からの通報の減少、携帯電話からの通報は増加傾向にあります。

火災、救助、警戒といった屋外で発生、または発見される災害では、携帯電話による通報比率が約65%と高く、自宅や屋内などで発生することが多い救急通報は、固定・IP電話による通報比率が約64%と高くなる現象が見られます。

携帯電話からの119番通報では、災害発生場所の確定に時間を要する場合がありますが、統合型位置情報通知システムの導入によりGPS機能を備えた携帯電話からの通報は、おおよその位置情報の把握は可能となりました。しかし、機種によっては位置情報の把握が困難な場合もあります。

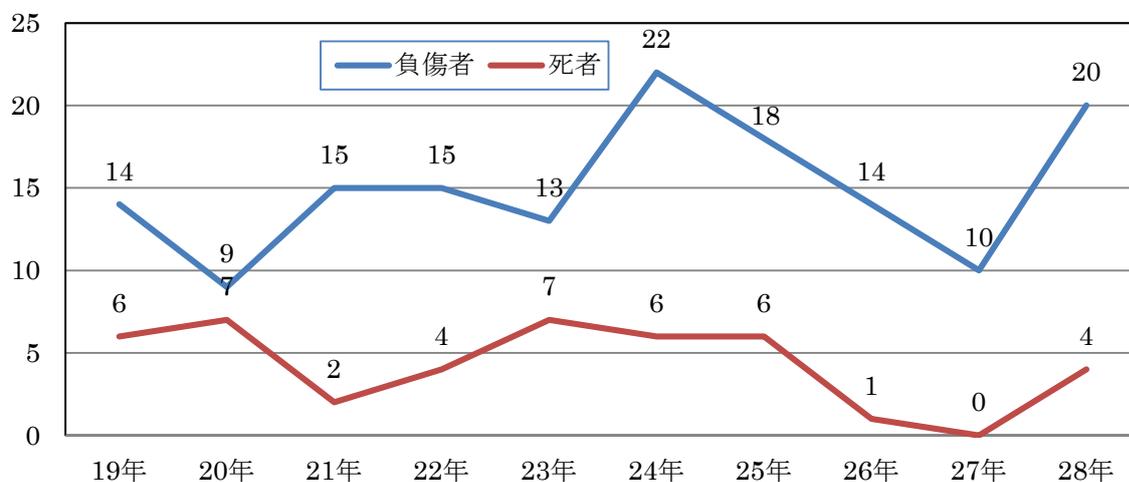
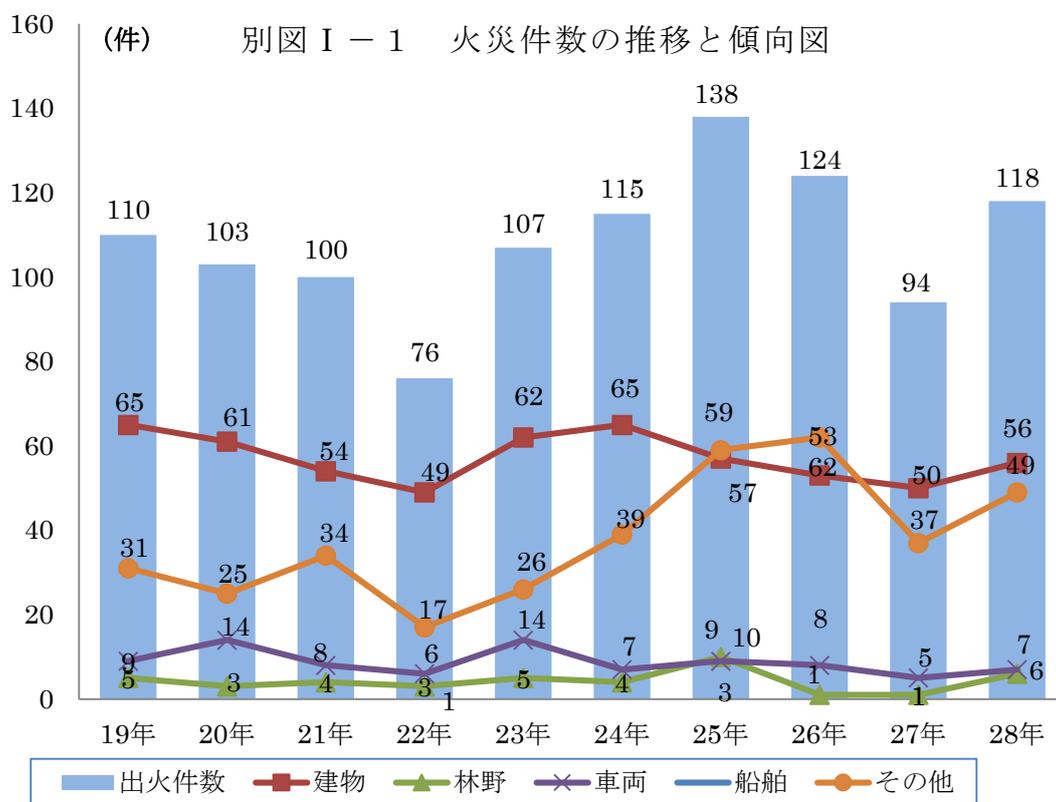
I 火災概況

(平成28年1月～12月)

1 火災の現況と最近の動向

この10年間の出火件数をみると、76件を記録した平成22年以降増加傾向となっていました。平成25年から平成27年にかけて減少傾向となっています。平成27年は、この10年間で2番目に少ない94件の火災が発生しましたが、平成28年の火災件数は118件で24件(25.5%)の増加となりました。

また、平成28年の火災による死者は4人で、過去10年間の平均は、4.3人となっています。



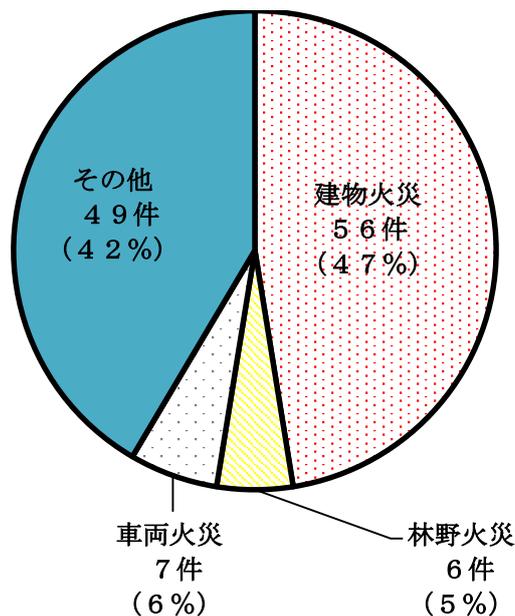
別表 I - 1 火災統括表

区 分 (単 位)	平成19年	平成27年	平成28年	増 減	増 減 率
出火件数	110	94	118	24	25.5
建物火災	65	50	56	6	12.0
林野火災	5	1	6	5	500.0
車両火災	9	5	7	2	40.0
船舶火災		1	0	△ 1	—
その他火災	31	37	49	12	32.4
焼損棟数 (棟)	74	67	83	16	23.9
全 焼	17	18	18	0	0.0
半 焼	6	4	6	2	50.0
部 分 焼	23	15	32	17	113.3
ぼ や	28	30	27	△ 3	△ 10.0
建物焼損床面積 (㎡)	2,305	3,858	2,942	△ 916	△ 23.7
建物焼損表面積 (㎡)	92	48	576	528	1100.0
林野焼損面積 (a)	48	1	23	22	2200.0
死 者 (人)	6	0	4	4	—
負傷者 (人)	14	10	20	10	100.0
り災世帯数 (世帯)	33	35	57	22	62.9
全 損	7	7	17	10	142.9
半 損	5	1	5	4	400.0
小 損	21	27	35	8	29.6
り災人員 (人)	91	94	109	15	16.0
損 害 額 (千円)	92,913	209,066	135,198	△ 73,868	△ 35.3
建物火災	89,856	206,024	132,673	△ 73,351	△ 35.6
建物火災1件当たり損害額	1,382	4,120	2,369	△ 1,751	△ 42.5
林野火災	427	0	312	312	—
車両火災	2,324	2,293	1,502	△ 791	△ 34.5
船舶火災		290		△ 290	—
その他火災	306	459	711	252	54.9
爆 発		0	0	0	—
出 火 率 (件/万人)		4.00	5.01	1.01	—

(1) 建物火災は火災全体の47%

総出火件数118件について、その構成比率をみると、建物火災が全体の47%で最も高い比率を占め、その次にその他火災が42%となっています。

(別図 I - 2 参照)



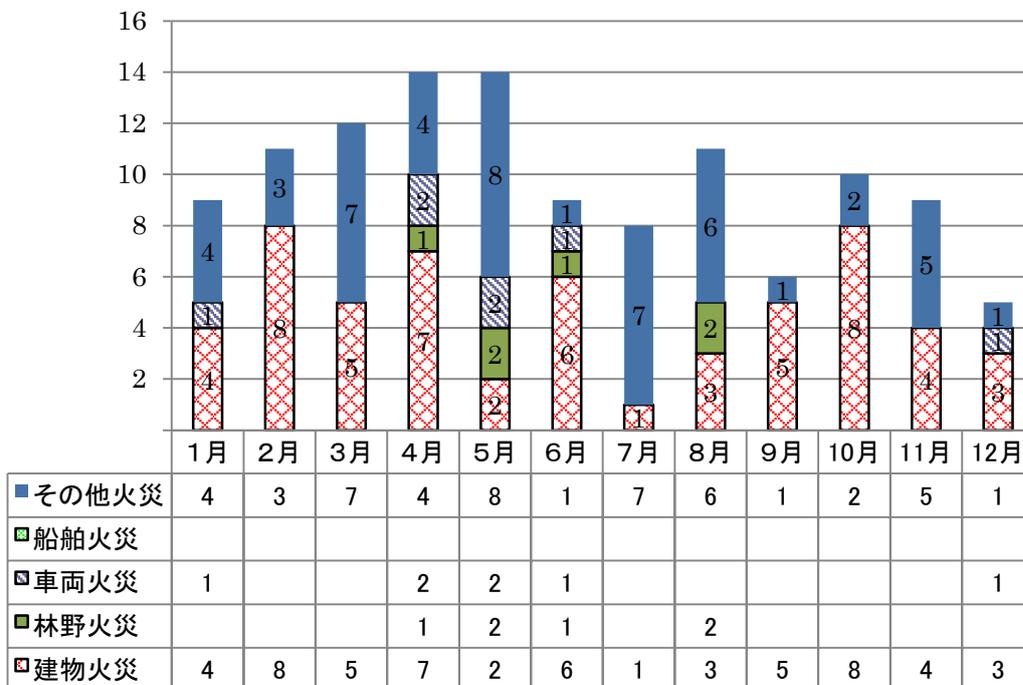
(2) 建物火災による損害額は減少

建物火災の損害額は前年比の約36%減少し、1件当たりの損害額も約43%減少となりました。焼損床面積は減少しましたが、焼損表面積は増加しています。

(3) その他火災は3月と5月に多く発生

月別の火災種別ごとの出火件数をみると、その他火災については5月がもっとも多く8件。3月及び7月に各7件発生しています。

建物火災は毎月発生していますが、特に、2月と10月の8件が最多でした。(別図 I - 3 参照)



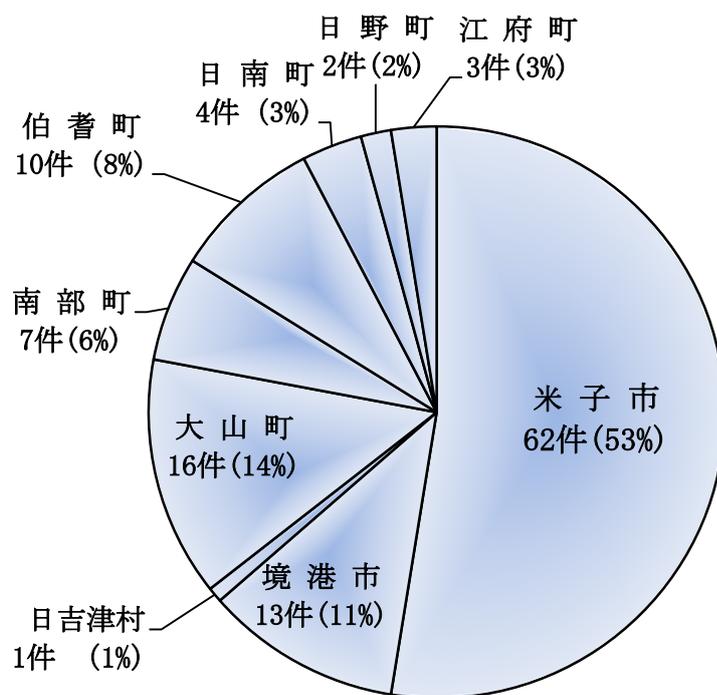
別図 I - 3 月別の火災種別ごと出火件数

(4) 市町村別火災状況

火災件数を市町村別で見ると、米子市が最も多く62件(53%)、次いで大山町の16件(14%)、境港市13件(11%)となっています。最も少なかったのは日吉津村の1件(1%)でした。

(別図I-4、別表I-3、別表I-4参照)

別図I-4 市町村別火災件数と構成比



3 火災による死傷者の状況

(1) 死者の状況

火災による死者数は前年は0人でしたが、今年は4人でした。

(2) 負傷者の状況

負傷者は20人で、前年に比べ10人(100%)増加しました。負傷者のうち14人が建物火災で発生し、また、その他火災でも4人が発生しています。(別表I-2参照)

別表I-2 火災種別死傷者発生状況

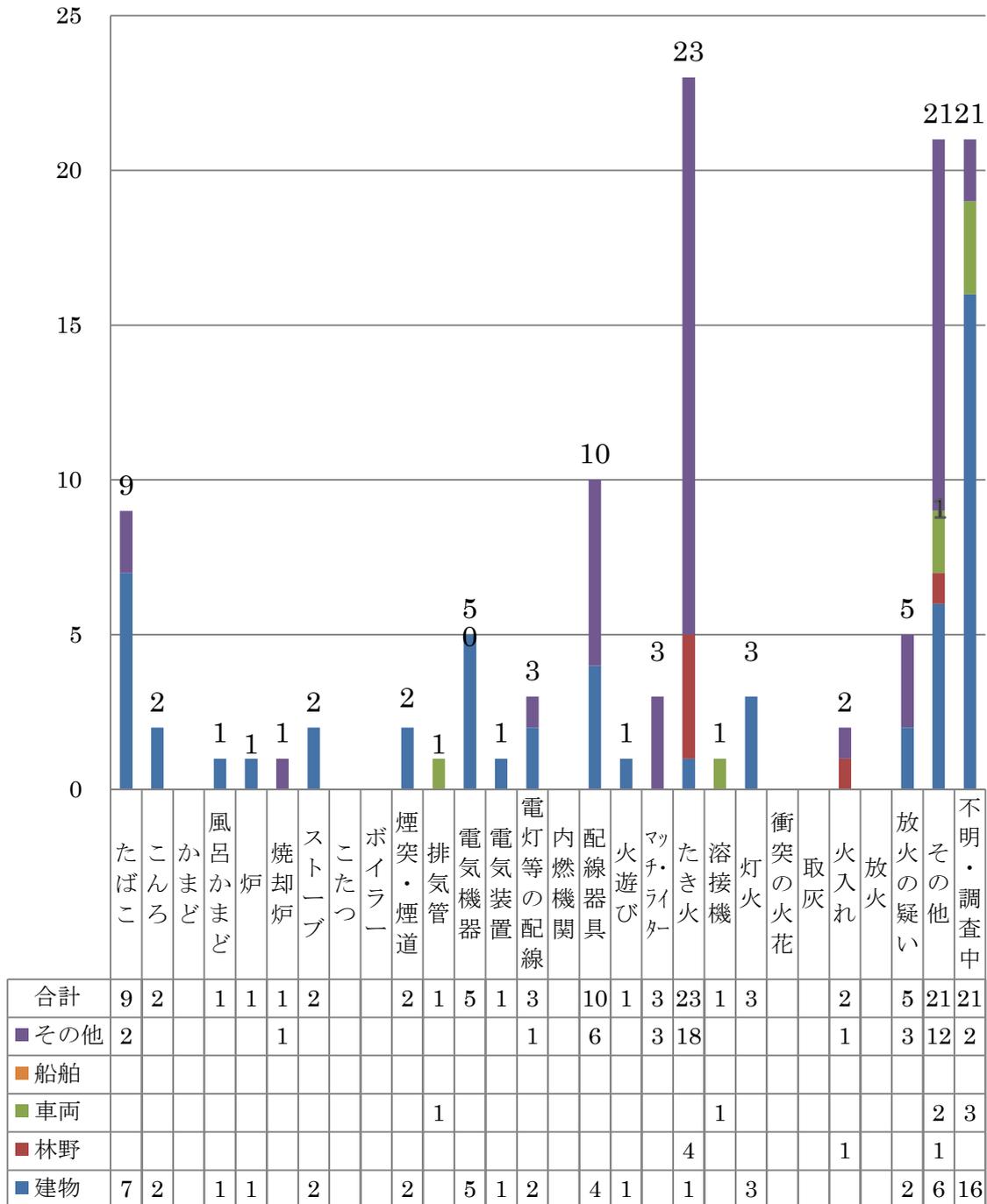
	合計	建物火災						車両火災	林野火災	その他火災
		小計	住宅	併用住宅	共同住宅	飲食店	その他			
死者	4	2	2						2	
死者(0~5歳)	0	0								
死者(6~64歳)	2	1	1						1	
死者(65歳~)	2	1	1						1	
負傷者	20	14	8		4		2	2	4	

4 出火原因

出火件数 118 件の出火原因を見ると、たき火 23（19%）件ともっとも多く、配線器具 10 件（8%）、次いで、たばこ 9 件（7.6%）、電気機器及び放火の疑いが各 5 件（4%）、となっています。

建物火災の主な原因をみると、たばこ 7 件、電気機器 5 件、配線器具 4 件となっています。（別図 I-5 参照）

別図 I-5 火災種別ごとの火災原因



別表 I - 4

	平成28年				平成27年				平成26年				平成25年				平成24年				
	合計	建物	林野	車両船舶その他	合計	建物	林野	車両船舶その他													
米子市	62	35	1	3	23	14	4	4	49	22	3	24	55	28	1	1	25	66	42	4	20
境港市	13	6	1	1	6	1	1	7	19	8	2	9	23	12	2	3	6	13	6	1	6
日吉津村	1				1	1	1	3	5	1	1	3	0					2	1	1	
大山町	16	5	2	3	6	10	4	5	23	12	2	9	20	8	1	2	9	16	6	1	9
南部町	7	1	1		5	5	3	2	10	5		5	15	2	4	1	8	5	3	1	1
伯耆町	10	3	2		5	4	3	1	7	1	1	6	12	5	1		6	6	2	2	2
日南町	4	3			1	5	3	2	4	3		1	6	2	2	1	1	2	2		
日野町	2	2				8	3	5	4	1		3	3		1	2	2	4	2	1	1
江府町	3	1			2	3	2	1	3	1		2	4	2			2	1	1		
合計	118	56	6	7	49	94	50	1	124	53	1	62	135	57	10	9	3	115	65	4	39

Ⅱ 救急概況

(平成28年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

平成28年中の救急出動件数は、前年に比べて291件増の10,654件、搬送人員は337人増の10,109人で、件数、人員ともに過去最多となりました。

(別図Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3参照)

2 市町村別救急活動状況

境港市、南部町、日南町は減少し、他市町村では増加となりました。特に米子市の出場件数、搬送人員が大幅に増加となりました。

(別図Ⅱ-4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が5,251人(51.9%)で最も多く、次いで軽症が3,551人(35.1%)となっています。

(別図Ⅱ-5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が6,292人(62.2%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ-6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ3,676件(36.4%)、3,441人(34.0%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ-7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出動件数は、12月が987件(9.3%)、続いて7月の954件(9.0%)となっています。

搬送人員は、12月が929人(9.2%)で最も多く、続いて7月の898人(8.9%)となっています。

(別図Ⅱ-8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分48秒で昨年より6秒増加し、平均収容所要時間は37分12秒で前年より12秒増加しました。

(別図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者287人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、143人(48.8%)でした。

(別図Ⅱ-11参照)

9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者287人のうち救急救命士の高度救命処置により、29人が回復されました。

(別図Ⅱ-12、Ⅱ-13参照)

10 救急講習件数の推移

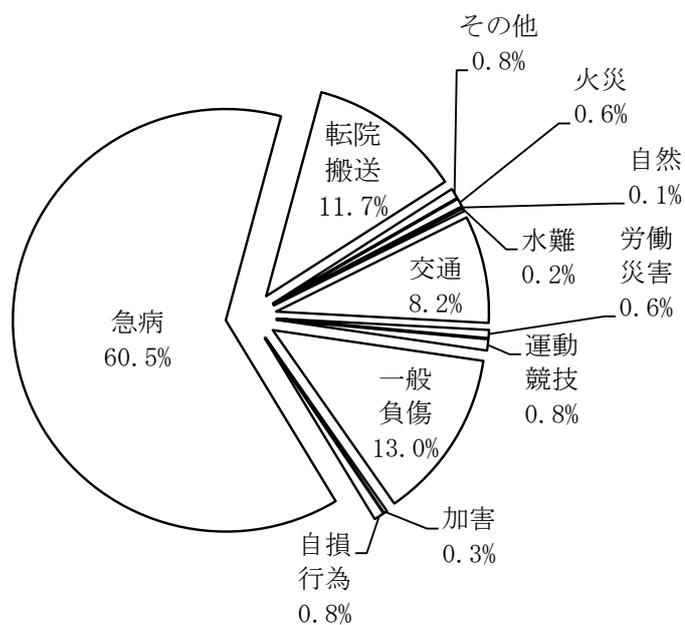
救急講習は毎年500件以上の依頼があり、圏域住民の応急手当に対する意識の高さがうかがえます。

(別図Ⅱ-14、Ⅱ-15参照)

11 市町村別救急活動の推移

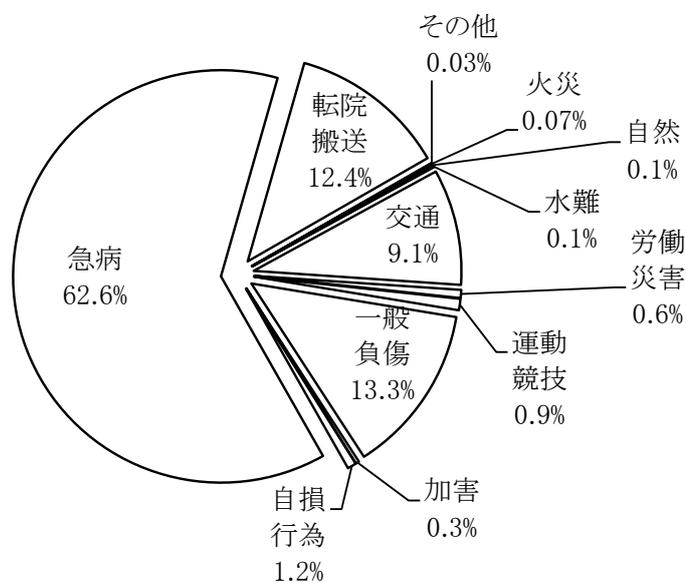
(別表Ⅱ-2参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出動状況



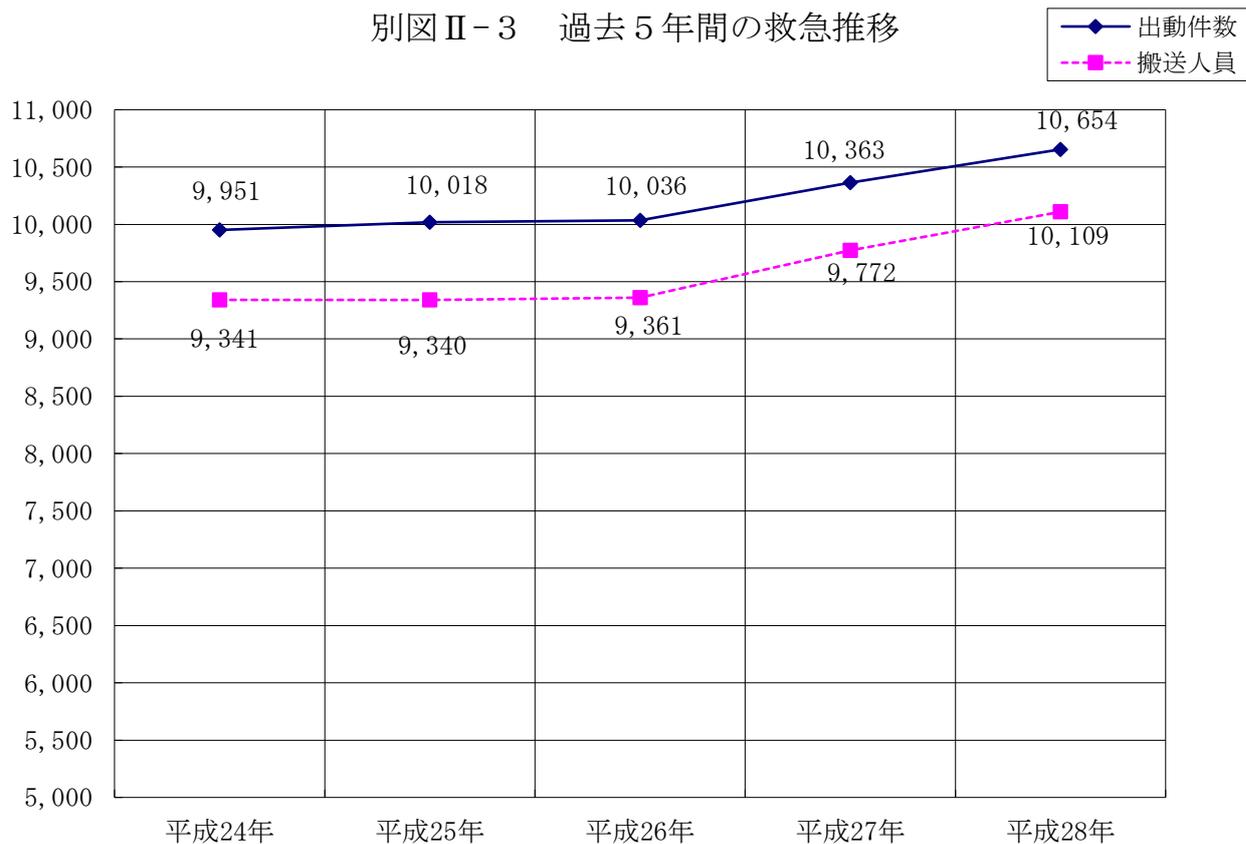
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	68	12	24	875	66	91	1,385	27	83	6,693	1,247	83	10,654

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

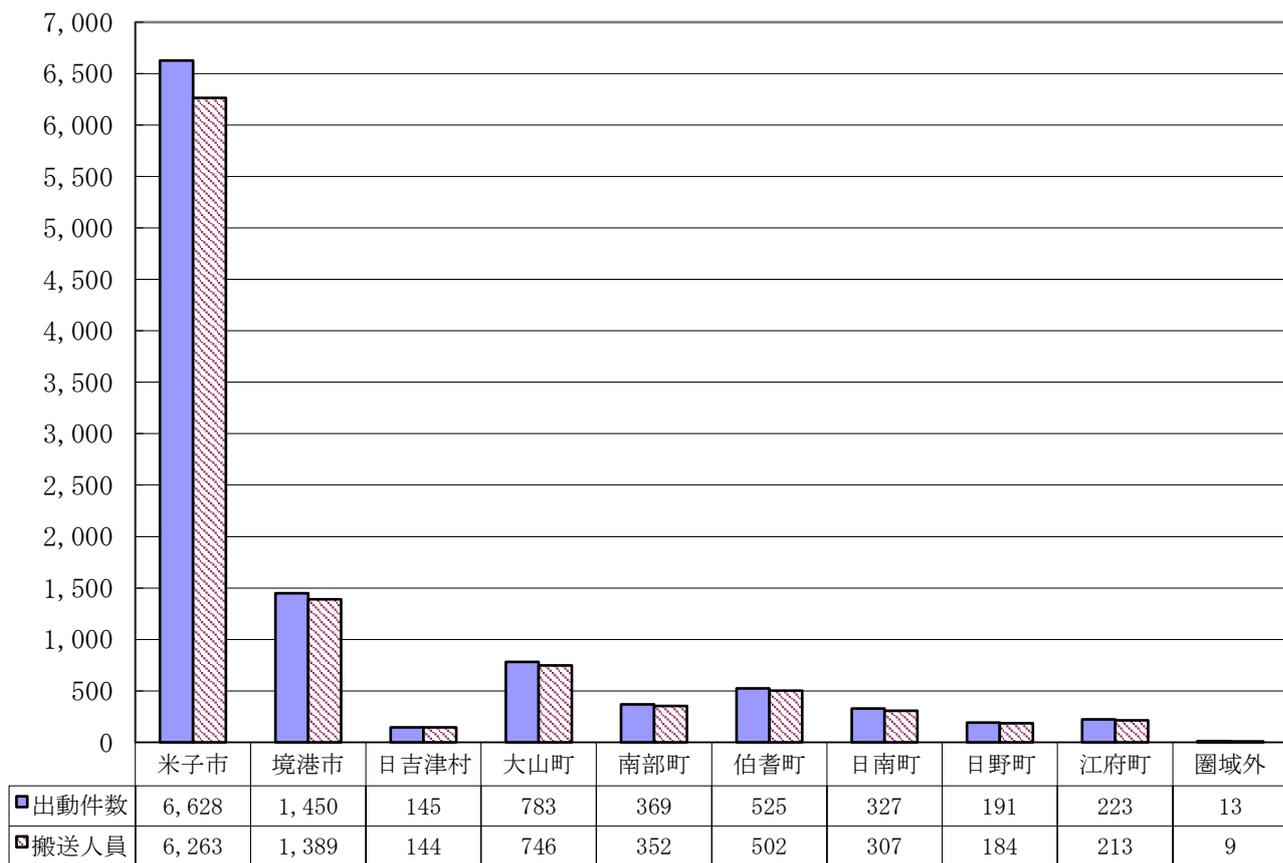


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	11	13	10	918	64	90	1,342	26	69	6,326	1,239	1	10,109

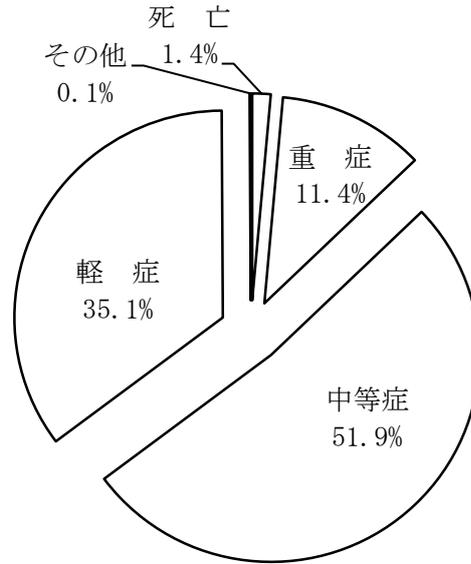
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

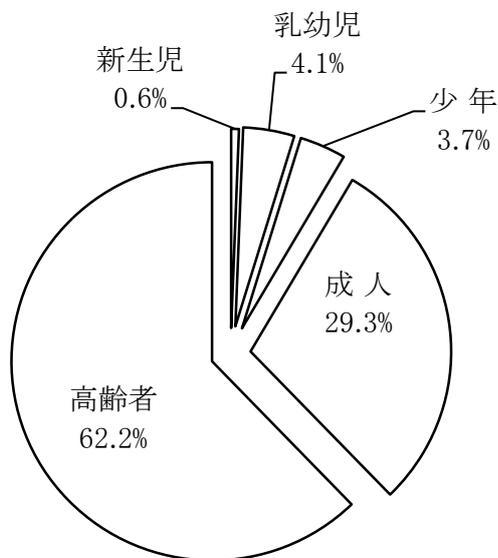


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



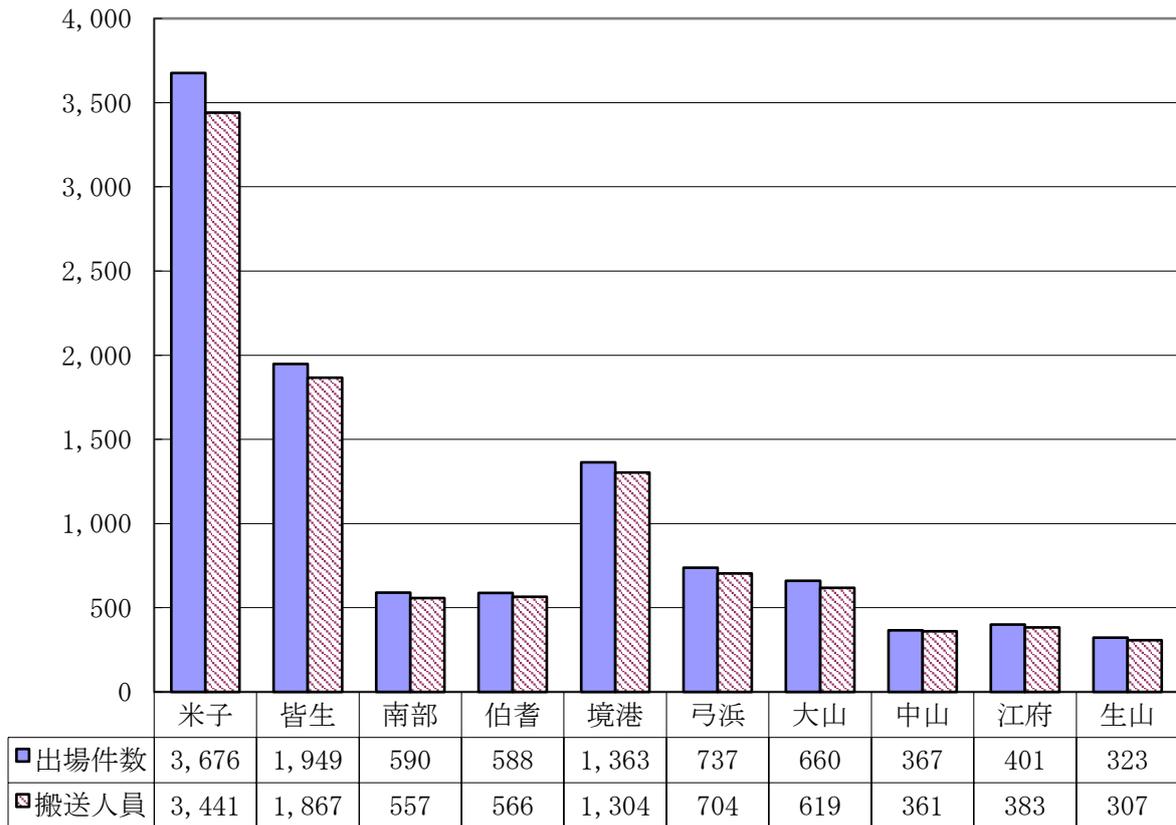
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	144	1,154	5,251	3,551	9	10,109

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

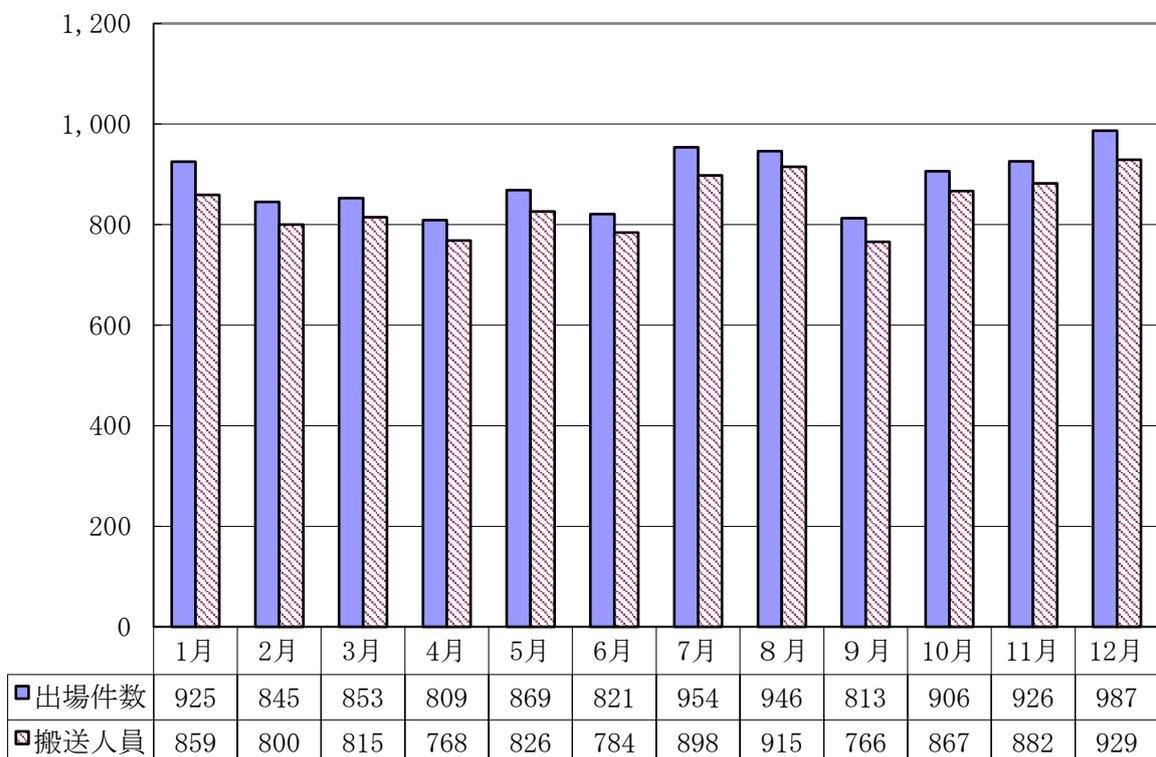


	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計
搬送人員	63	417	376	2,961	6,292	10,109

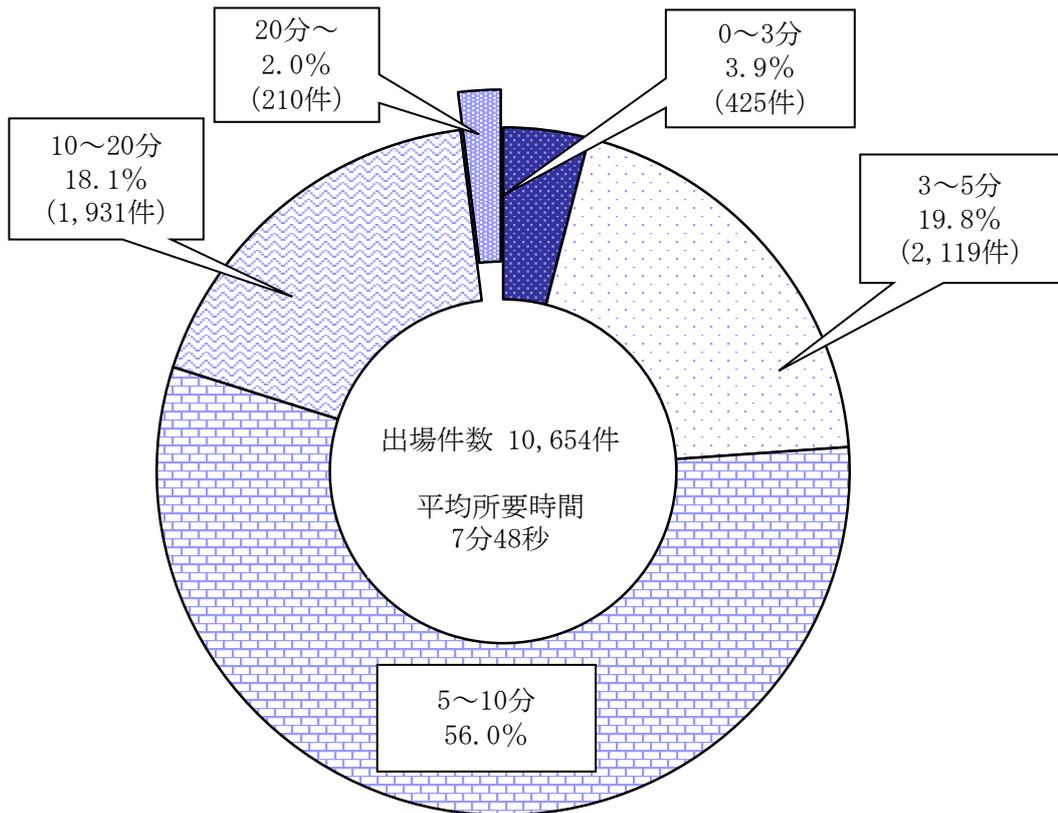
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



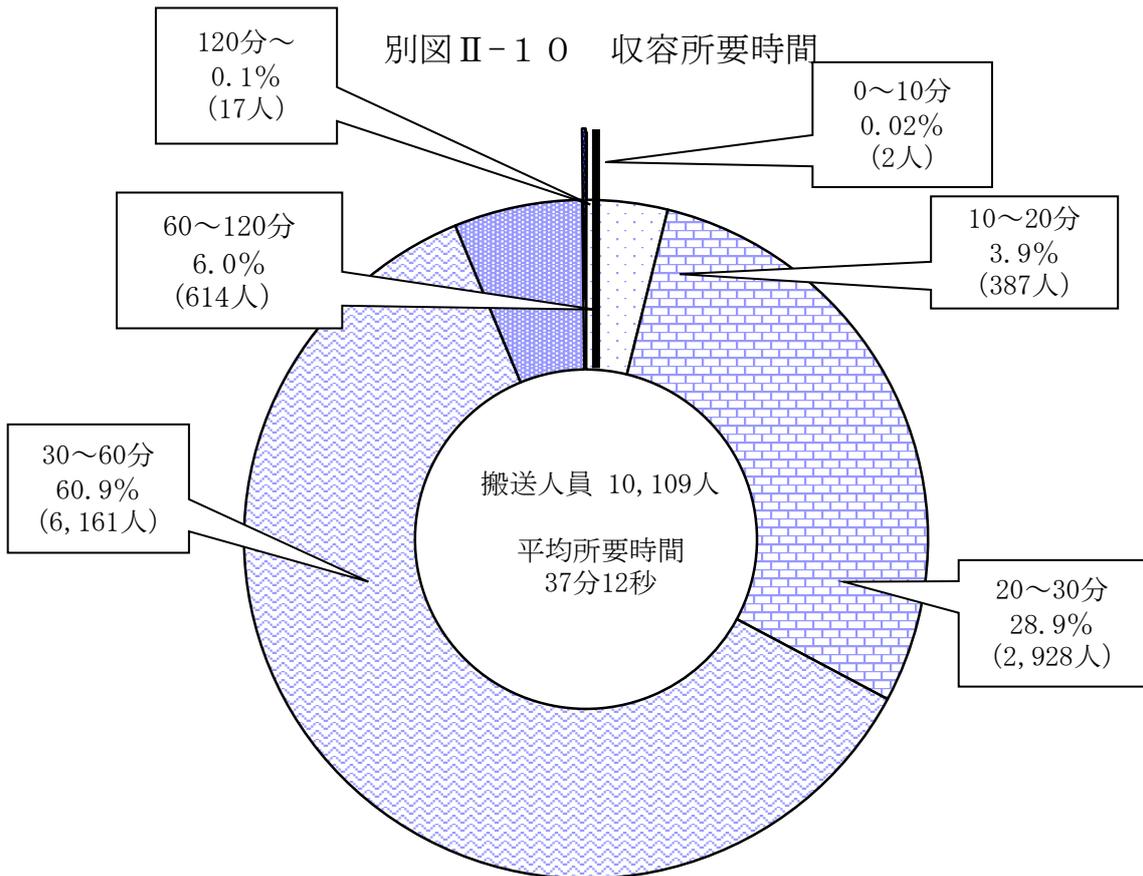
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



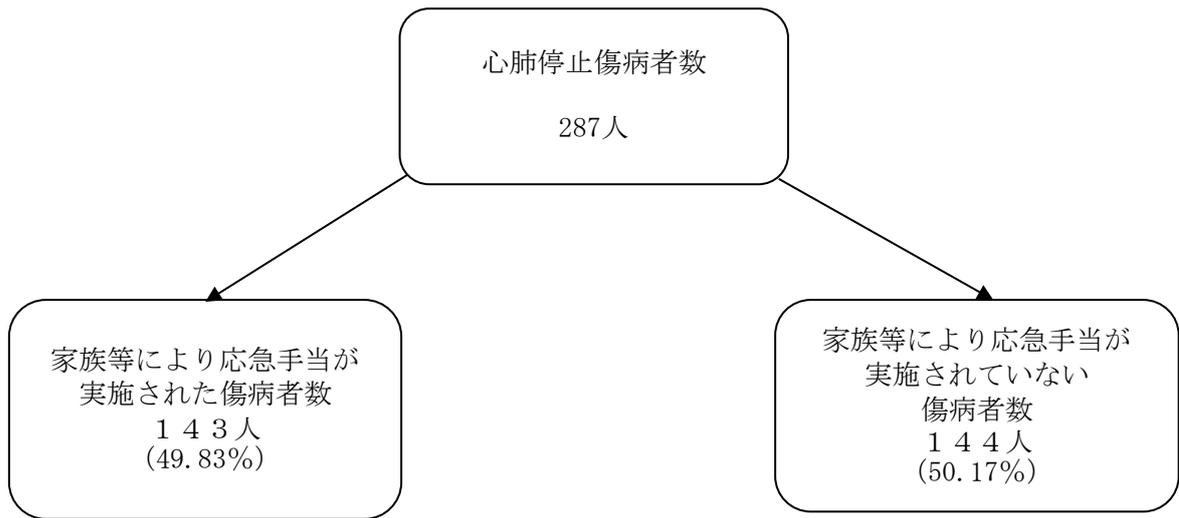
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



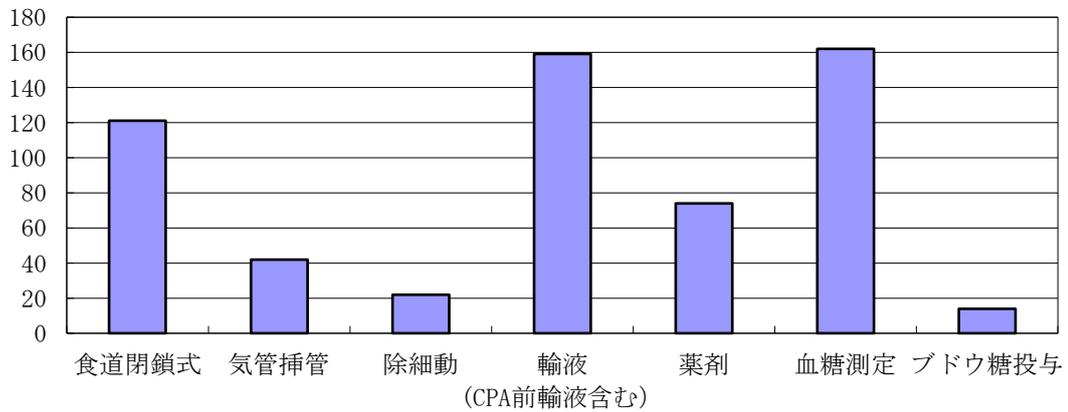
別図Ⅱ-10 収容所要時間



別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況

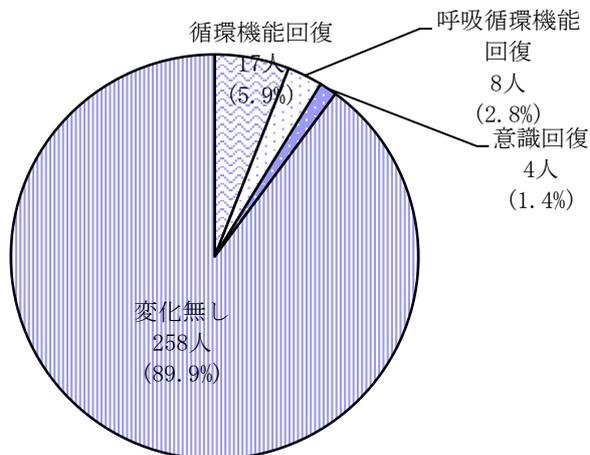


別図Ⅱ-1 2 高度救命処置件数

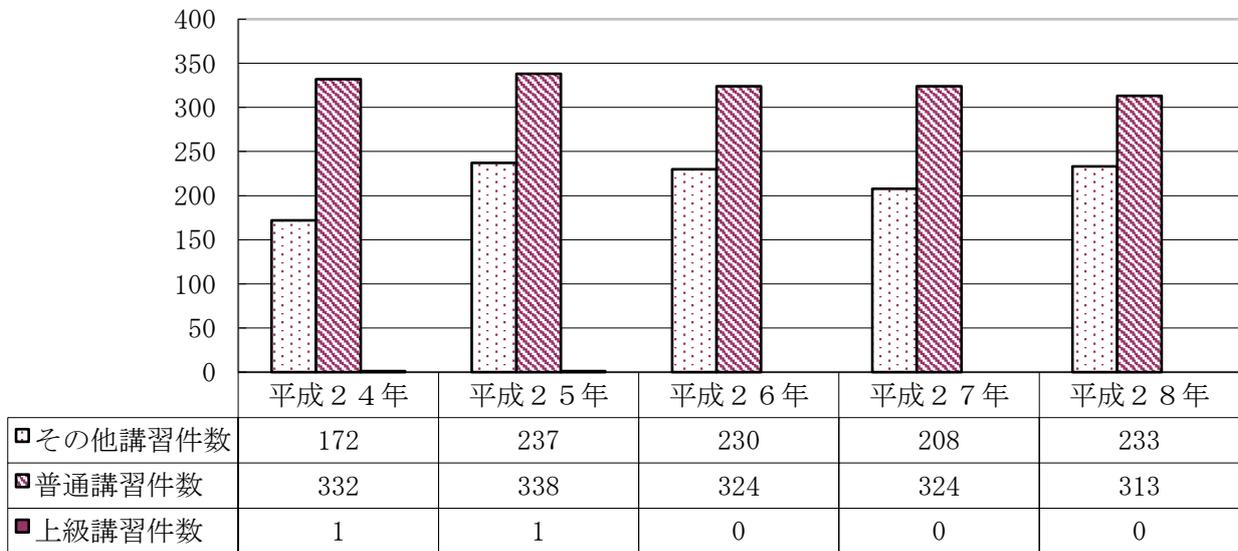


処置項目	食道閉鎖式	気管挿管	除細動	輸液 (CPA前輸液 含む)	薬剤	血糖測定	ブドウ糖投与
実施件数	121	42	22	159	74	162	14

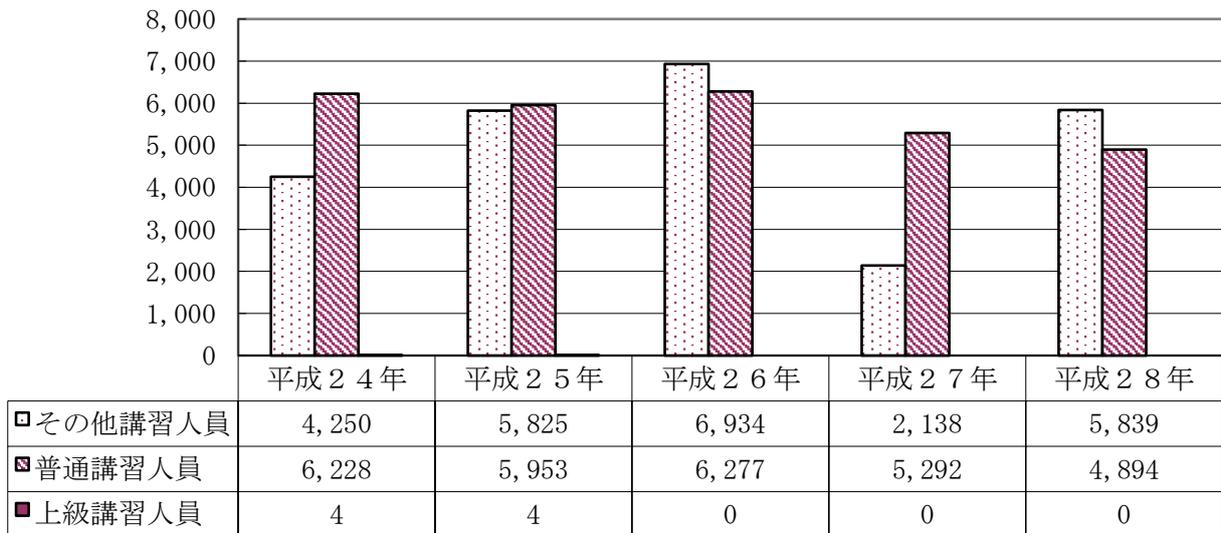
別図Ⅱ-1 3 医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－１４ 過去５年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－１５ 過去５年間の救急講習人員推移



別表Ⅱ－1 過去5年間の市町村別救急件数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
米子市	6,092	6,028	6,088	6,300	6,628
搬送人員数	5,668	5,551	5,645	5,919	6,263
境港市	1,344	1,356	1,329	1,522	1,450
搬送人員数	1,292	1,294	1,265	1,451	1,389
日吉津村	119	127	152	128	145
搬送人員数	113	120	139	126	144
大山町	766	860	799	742	783
搬送人員数	728	809	736	697	746
南部町	376	356	384	388	369
搬送人員数	360	331	360	366	352
伯耆町	461	485	441	518	525
搬送人員数	435	474	410	498	502
日南町	349	344	346	345	327
搬送人員数	332	317	327	323	307
日野町	179	184	223	184	191
搬送人員数	161	172	217	175	184
江府町	217	224	229	197	223
搬送人員数	209	217	222	188	213
圏域外	48	54	45	39	13
搬送人員数	43	55	40	29	9
合計	9,951	10,018	10,036	10,363	10,654
搬送人員数	9,341	9,340	9,361	9,772	10,109

Ⅲ 救助概況

(平成28年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は183件あり、そのうち交通事故が84件(45.9%)、火災が29件(15.8%)、その他の事故が38件(20.8%)、水難事故が18件(9.8%)、建物等による事故が8件(4.4%)、風水害による事故が4件(2.2%)、機械による事故が2件(1.1%)の順となっています。

(別図Ⅲ—1参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は135件あり、そのうち交通事故が46件(34.1%)、その他の事故が35件(29.7%)、火災が29件(21.5%)、水難事故が15件(11.1%)、建物等による事故6件(4.4%)、風水害による事故が2件(1.5%)、機械による事故2件(1.5%)の順となっています。

(別図Ⅲ—2参照)

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は104人あり、そのうち交通事故が51人(49.0%)と最も多く、次いでその他の事故が29人(27.9%)、水難事故が15人(14.4%)、建物等による事故3人(2.9%)、火災が2人(1.9%)、風水害による事故2人(1.9%)、機械による事故が2人(1.9%)の順となっています。

(別図Ⅲ—3参照)

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が97件(53.0%)と最も多く、次いで大山消防署が45件(24.6%)、境港消防署が23件(12.6%)、江府消防署が18件(9.8%)の順となっています。

(別図Ⅲ—4参照)

5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数82件(44.8%)、次いで大山町が28件(15.3%)、境港市が18件(9.8%)、伯耆町が14件(7.7%)等の順となっており、他米子道、山陰道へも出動しています。

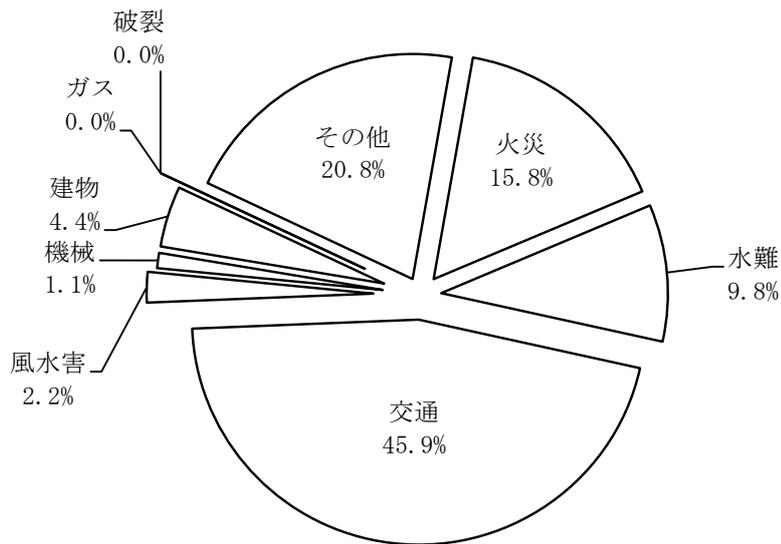
(別図Ⅲ—5参照)

6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、9月が23件(12.6%)と最も多く、次いで1月が20件(10.9%)、4月が19件(10.4%)、3月・7月が17件(9.3%)等の順となっています。

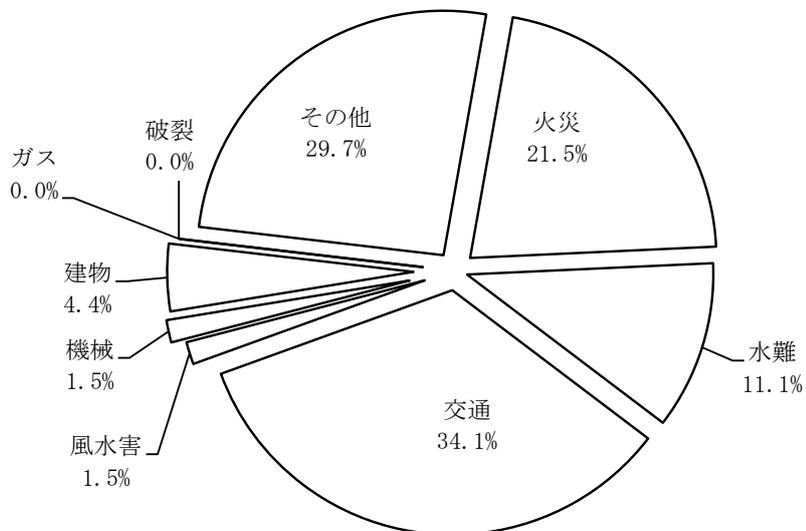
(別図Ⅲ—6参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況



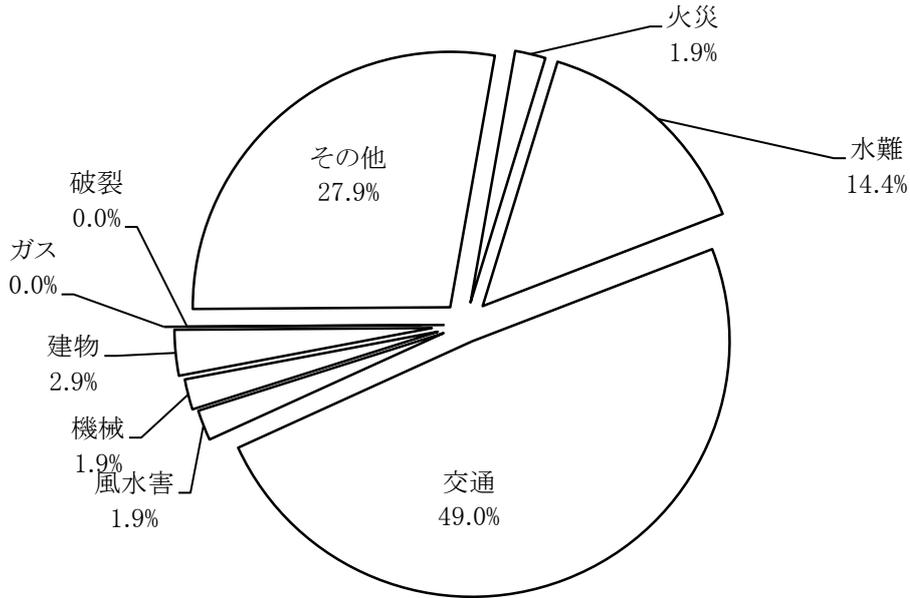
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	29	18	84	4	2	8	0	0	38	183

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



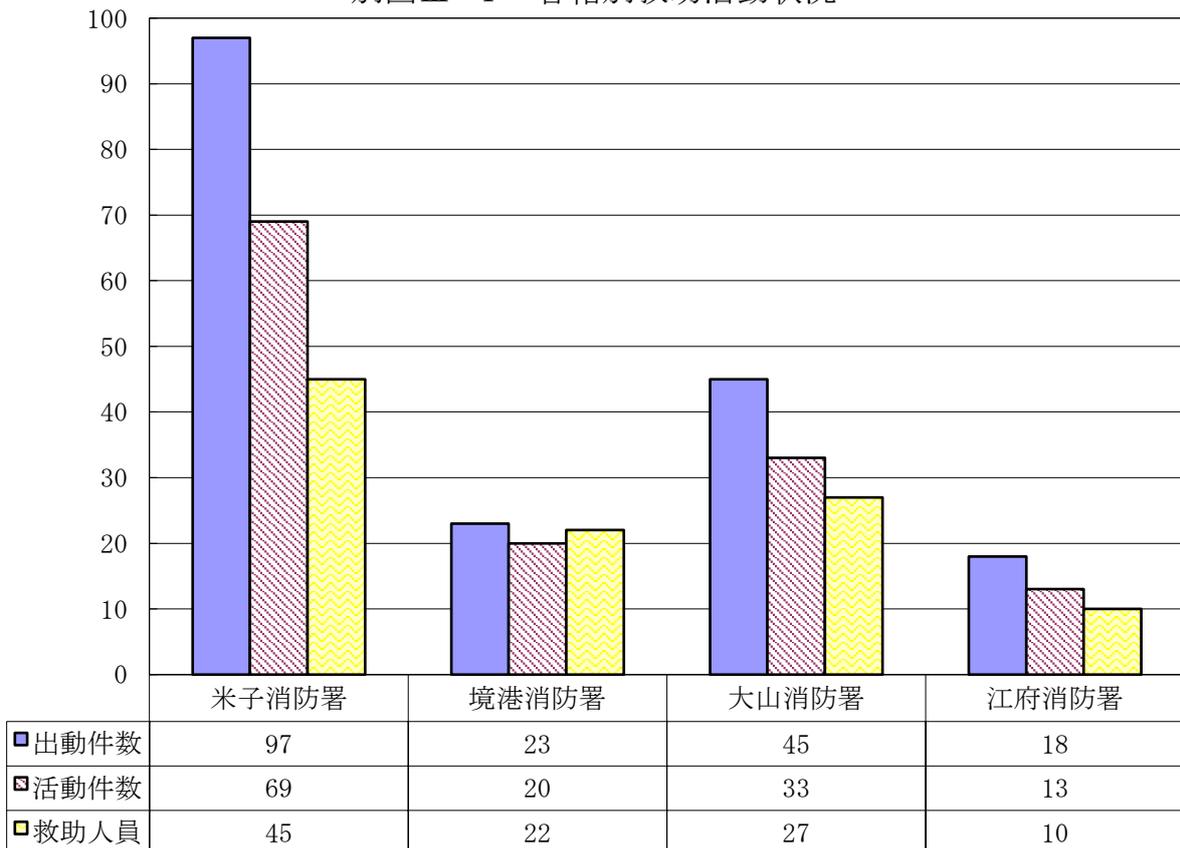
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	29	15	46	2	2	6	0	0	35	135

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

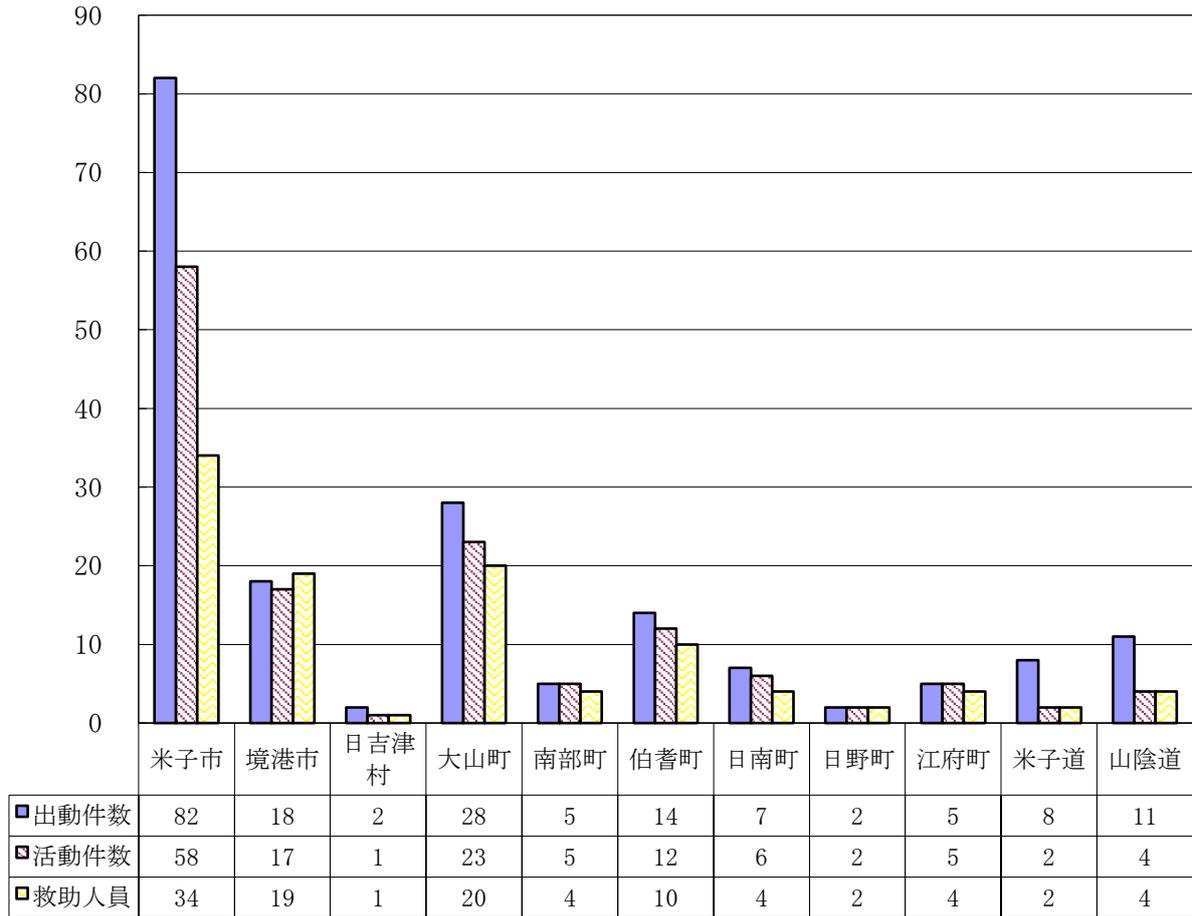


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	2	15	51	2	2	3	0	0	29	104

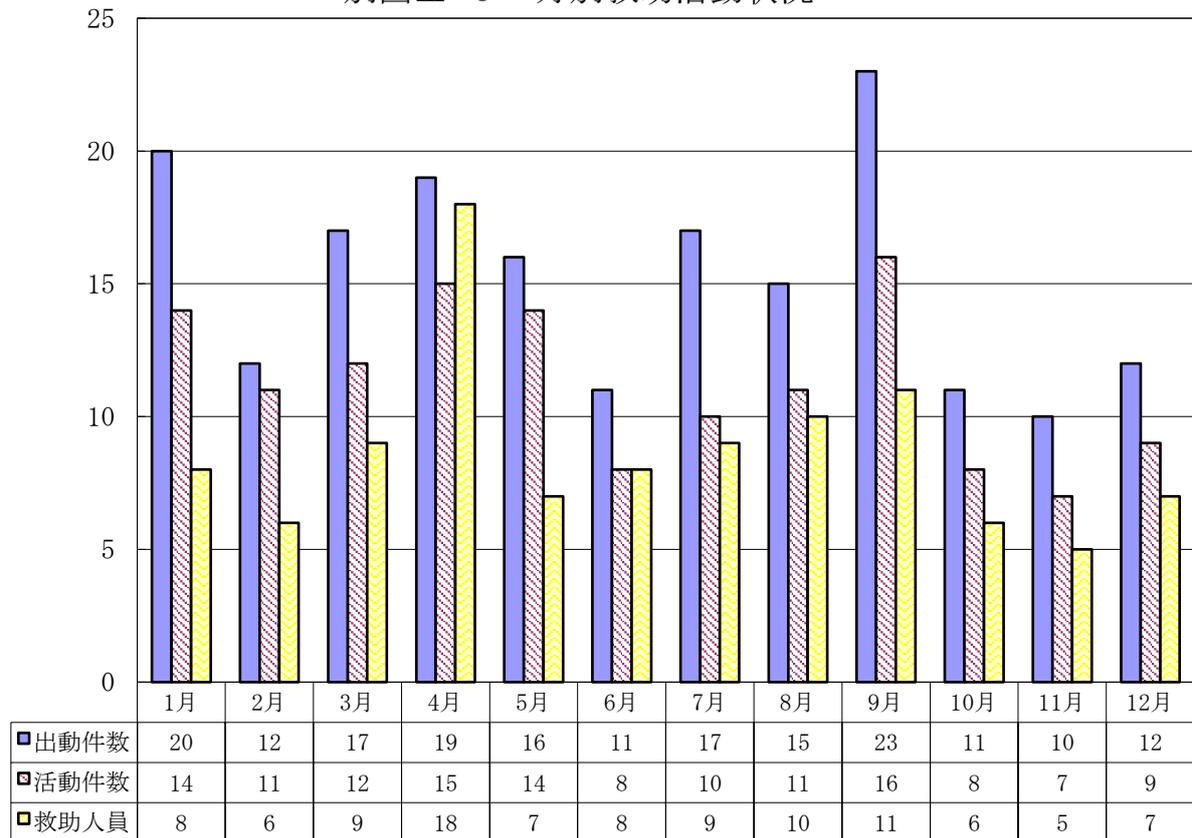
別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



別図Ⅲ-6 月別救助活動状況



IV 119番着信概況

(平成28年1月～12月)

1 着信件数の概況

平成28年中の119番通報の着信件数の概況は、総着信件数14,365件で昨年に比べ38件(0.3%増)多くなっています。1ヶ月平均にすると約1,197件、1日平均では約39件の着信となります。通報種別としては、救急が最も多く10,206件(71.0%)でした。火災は180件(1.3%)、救助103件(0.7%)、警戒158件(1.1%)、病院などに関する問い合わせ等808件(5.6%)、間違い778件(5.5%)、悪戯と思われるものが52件(0.3%)、通報訓練等2,080件(14.5%)でした。(別表IV-1参照)

2 月別の119番着信状況

月別で着信件数の最も多かったのは7月の1,297件で、最も少なかったのは4月の1,037件でした。救急通報で最も多かったのは12月の941件、最も少なかったのは4月と9月の771件で、月平均約851件でした。火災通報で最も多かったのは1月の36件、最も少なかったのは11月の4件で、月平均約15件でした。(別表IV-2参照)

3 電話種別による119番着信状況

電話種別ごとに着信件数を見ますと、固定・IP電話は9,069件で289件の減少、携帯電話は5,296件で327件の増加でした。固定・IP電話からの通報の減少、携帯電話からの通報は増加傾向にあります。

災害別に電話種別による通報状況を見ますと、火災、救助、警戒など衆人に発見されやすいものについては携帯電話での通報比率が約65%と高く、救急など屋内での発生が多いものについては固定電話とIP電話での通報比率が約64%と高くなっています。(別表IV-3、IV-4参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は5,296件で、全着信件数の約37%でした。また、携帯電話からの問合せ、間違いなどの通報が多くみられます。

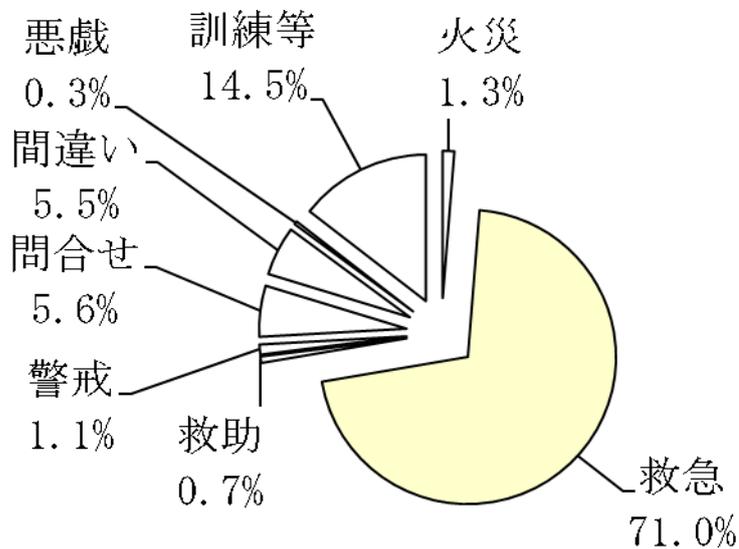
管轄地区内からの119番通報を、隣県などの他の消防機関から転送受信した件数は40件で、逆に管轄地区以外からの119番通報を、他の消防機関へ転送処理した件数は37件ありました。(別表IV-5、IV-6参照)

5 時間帯別119番通報の着信状況

時間帯別に119番通報の着信比率を見ると、一般的な活動時間帯(午前8時～午後9時台)では全体の約79%で、睡眠時間帯(午後10時～午前7時台)では約21%でした。(別図IV-7参照)

別表Ⅳ-1 119番着信件数

火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
180	10,206	103	158	808	778	52	2,080	14,365

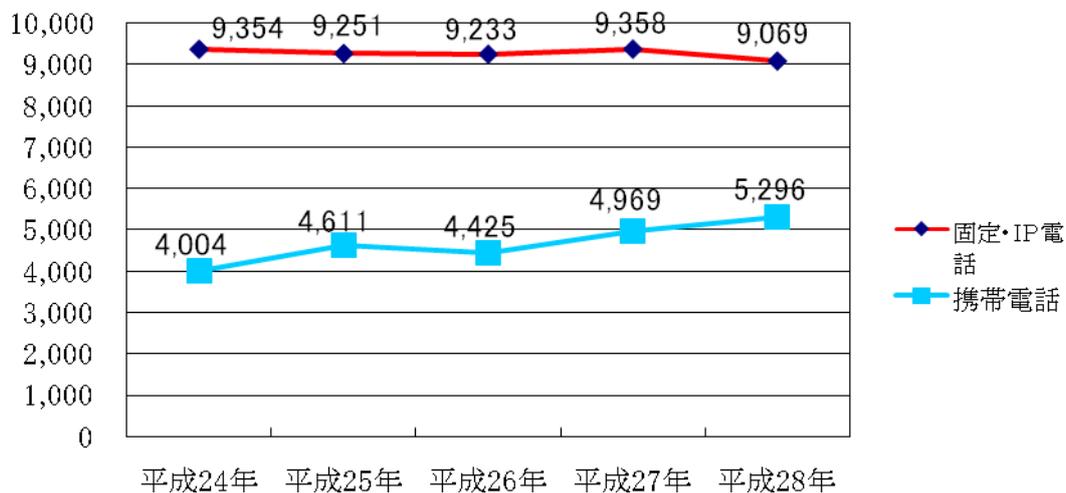


別表Ⅳ-2 月別119番着信状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
1月	36	866	5	10	88	72	1	95	1,173
2月	24	797	5	9	34	59	3	133	1,064
3月	24	812	9	7	60	54	0	227	1,193
4月	8	771	18	13	49	53	2	123	1,037
5月	25	840	6	17	70	78	3	164	1,203
6月	7	795	9	8	87	52	9	210	1,177
7月	13	928	13	12	81	83	7	160	1,297
8月	9	914	10	17	79	92	9	105	1,235
9月	15	771	7	10	74	60	8	182	1,127
10月	10	878	6	23	59	56	2	251	1,285
11月	4	893	7	17	59	56	6	246	1,288
12月	5	941	8	15	68	63	2	184	1,286
合計	180	10,206	103	158	808	778	52	2,080	14,365
月平均	15.0	850.5	8.6	13.2	67.3	64.8	4.3	173.3	1,197.1

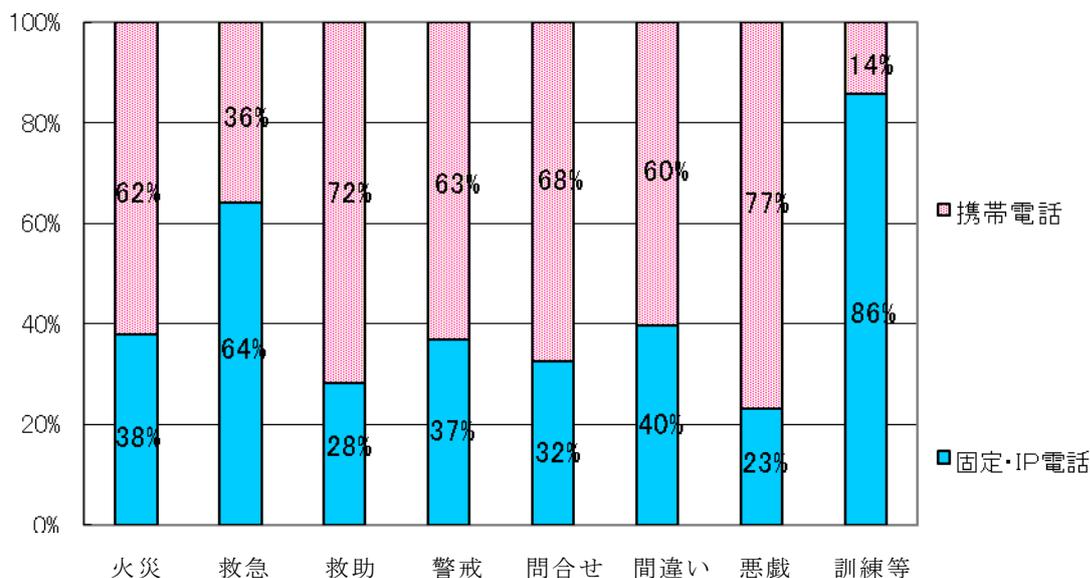
別表Ⅳ－3 電話種別による119番着信件数の推移

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
固定・IP電話	9,354	9,251	9,233	9,358	9,069
携帯電話	4,004	4,611	4,425	4,969	5,296
合計	13,358	13,862	13,658	14,327	14,365



別表Ⅳ－4 電話種別による通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
固定・IP電話	68	6,548	29	58	262	309	12	1,783	9,069
携帯電話	112	3,658	74	100	546	469	40	297	5,296
合計	180	10,206	103	158	808	778	52	2,080	14,365



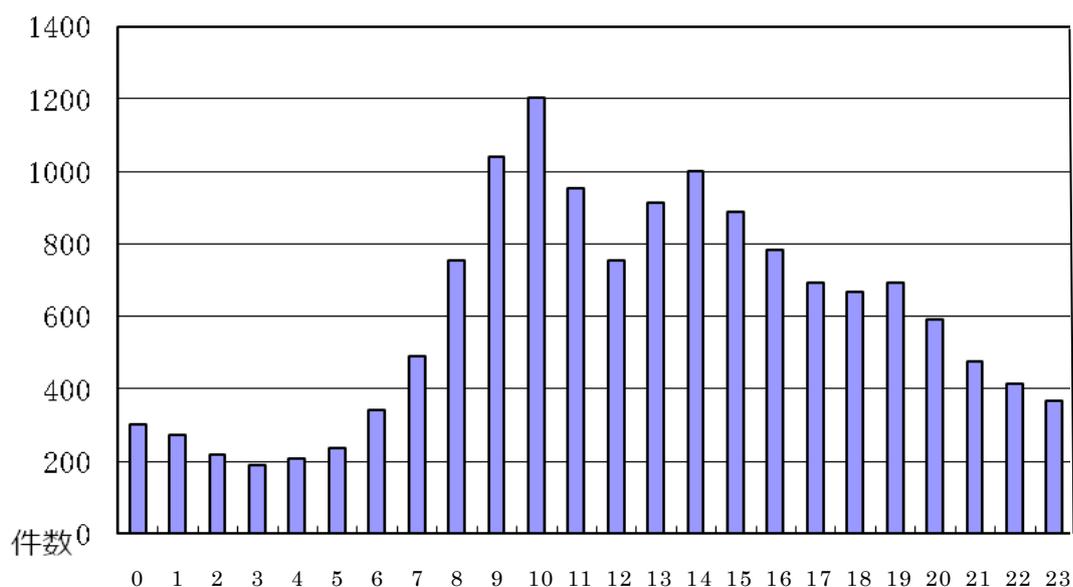
別表Ⅳ－5 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に転送をした件数
直接通報を受けた件数	他の消防機関から転送受信した件数	総着信件数	
5,256	40	5,296	37

別表Ⅳ－6 携帯電話の消防機関別転送状況

他の消防機関から転送を受信した件数					他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計	消防	火災	救急	その他	合計
松江		14		14	松江		16	1	17
安来		13	2	15	安来		12		12
雲南				0	雲南				0
東部		3	1	4	東部		2		2
中部		5	1	6	中部		5	1	6
新見		1		1	新見				0
真庭				0	真庭				0
津山				0	津山				0
備北				0	備北				0
合計	0	36	4	40	合計	0	35	2	37

別図Ⅳ－7 時間帯別着信状況



消しましょう その火その時 その場所で

平成28年度全国統一防火標語

火災情報テレホンガイド 0859-22-0119

防火・救急に関するご相談・お問い合わせ

お気軽に最寄りの消防署へどうぞ

名 称	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
消 防 局	米子市両三柳5452番地	683-0853	0859-35-1951
米子消防署	米子市富士見町一丁目103番地1	683-0055	0859-39-0251
米子消防署皆生出張所	米子市皆生五丁目8番5号	683-0003	0859-39-0253
米子消防署南部出張所	西伯郡南部町清水川3番地1	683-0321	0859-39-6003
米子消防署伯耆出張所	西伯郡伯耆町溝口20番地4	689-4201	0859-39-9001
境港消防署	境港市中野町2116番地	684-0041	0859-47-0119
境港消防署弓浜出張所	米子市大篠津町2913番地1	683-0101	0859-48-2005
大山消防署	西伯郡大山町末吉403番地2	689-3331	0859-39-5002
大山消防署中山出張所	西伯郡大山町長野880番地3	689-3136	0858-49-3001
江府消防署	日野郡江府町武庫1390番地3	689-4411	0859-77-2001
江府消防署生山出張所	日野郡日南町生山349番地1	689-5211	0859-77-1001

※本概況に関するお問い合わせは下記をお願いします。

火災…………… 予防課予防係	0859-35-1954
救助…………… 警防課消防第一係	0859-35-1959
救急…………… 警防課救急室	0859-35-1958
119番着信状況…指令課指令係	0859-35-1960

平成29年2月発行

〒683-0853 米子市両三柳5452番地

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

TEL 0859-35-1951(代)